

安全データシート

作成：2023年7月18日

1. 製品名および提供事業者情報

製品 エナメル銅線

製品名(略称)

PIW AIW EAW EIW PEW PVF UEW SFWF

SFT-AIW SFT-AIW@K SFT-BA-NV SFT-BI-NV

SBPVF- * SBPEW- * SBEIW- * SBEAW- * SBAIW- * SBUEW- *

@：皮膜の厚さによる区分を数字にて表示 *：接着層材質を示す記号を表示

製造会社名 SWCC株式会社

住所 三重県いなべ市北勢町麻生田 1326-1

担当部門 線材巻線技術部

電話番号 0594-72-3117

FAX 番号 0594-72-6453

2. 危険有害性の要約

製品での有用な情報ないため、主構成元素である銅の情報を記述する。

GHS分類

健康に対する有害性：

区分3 気道刺激性
区分1A アレルギー性皮膚反応の恐れ区分1
肝臓

水性環境有害性(慢性)：区分4

3. 成分情報

成分名	含有量 %	CAS NO.
銅	90~99.5	7440-50-8
樹脂(コーティング)	0.5~10	—
潤滑剤	0.01 以下	— (注釈1)

注釈：SFT-BA-NV SFT-BI-NV は潤滑剤なし

4. 応急措置

製品をコイル加工等行い、粉、塵埃または燃焼によるガス等が発生した場合

目に入った時：水で数分間十分に洗浄する。その後医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した時：付着した衣類は脱ぎ、皮膚を速やかに洗浄すること。気分が悪いときは医師の診断を受けること。

飲み込んだ時：速やかに口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

吸引した時：吸引した者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい状態で休息させる。気分が悪いときは医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

火災場所に、製品が保管されている場合、消火には下記対応が望ましい。

消火剤：特殊粉末消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤：注水、泡消火剤、二酸化炭素

消火方法：密閉法、窒息消火法が望ましい。

特有の危険有害性情報：火災により刺激性、毒性または腐食性ガス及びヒュームを発生する恐れがある。消火に水を用いると水素ガスが発生することがある。

6. 漏出時の措置

通常は固体なので漏出しないが、何らかの事由により漏出状態となった場合、注意すべき点を以下に記載する。

人体に対する注意事項 : 接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収、中和等 : 漏洩物を掃き集めて、密閉できる空容器に回収した後、廃棄する。

7. 取扱及び保管上の注意

- ・火気、静電気等による着火源が生じるような場所での使用は避ける。
- ・コイル巻加工前後での強酸、強アルカリ、有機溶剤等の薬品、水等との接触を避ける。
- ・コイル巻加工方法によっては、断線等による人体と電線端末との接触が発生する場合があります。取扱いに際しては保護眼鏡、手袋等の保護具を着用する。
- ・熱又は半田により皮膜を剥離する場合、皮膜が分解して発生するガスは有害と考えられるので、保護具の着用、排気設備を設置する等の対策を行う。
- ・機械的な剥離を行う場合は剥離によって生じた皮膜かすや銅粉に触れたり、吸入しないよう保護具を着用する。
- ・保管は室内とし高温、多湿環境下は避け、直射日光を受けないようにする。
- ・酸・アルカリ・有機溶剤等の薬品の近くに置かないようにする。
- ・製品をむき出しにしてちりやほこり等に触れやすい状態で保管しないようにする。

8. 暴露防止及び保護措置

製品での情報はないため、主構成元素である銅の情報を記述する。

管理濃度 : 設定されていない

許容濃度 : 日本産業衛生学会(2005年版) 設定されていない

ACGIH(2005年版) TLV-TWA 0.2mg/m³(ヒュームとして)

TLV-TWA 1.0mg/m³(粉塵、ミストとして)

設備対策 : 加工等によりヒュームが発生する場合、局所排気装置等の設備対策を行うこと。

保護具 : 防塵または防毒マスク、安全眼鏡、保護手袋、安全靴。

9. 物理的及び化学的性質

外観 : 茶褐色の線状固体

密度 : 銅は 8.89

融点 : 銅は 1083°C

溶解度 : 水に不溶

10. 安定性及び反応性

安定性 : 常温保管で安定。アセチレン化合物、エチレノキシド類、アジ化物により衝撃に敏感な化合物が形成される。

反応性等 : 酸化剤(塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩等)と反応し、爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件 : 湿度、混触危険物質との接触。

混触危険物質 : アセチレン化合物、エチレノキシド類、アジ化物、酸化剤(塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩等)

分解生成物 : 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、銅ヒューム等。

引火点 : 知見なし。

発火点 : 知見なし。

可燃性 : 知見なし。

11. 有害性情報

製品での有用な情報ないため、主構成元素である銅の情報を記述する。

急性毒性 : 経口 ウサギ LDLO 120 µg/kg

皮膚腐食性・刺激性 : 皮膚に接触すると発赤の症状を引き起こす場合がある。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: 眼に入ると発赤、痛みの症状を引き起こす。刺激性がある。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	: 呼吸器感受性：データなし 皮膚感受性：日本産業衛生学会（産衛学会勧告 2012）では銅を皮膚感受性物質第 2 群に分類しており、本物質は対象となっている（感受性分類基準（暫定）の提案理由（平成 22 年 5 月 26 日））ことから、区分 1A とした。
生殖細胞変異原性発がん性	: 知見なし。 EPA はグループ D（ヒト発がん性に分類できない物質）に分類されている。
生殖毒性	: 知見なし。
特定標的臓器/全身毒性(単回ばく露)	: ヒュームは上部気道を刺激する。気道刺激性と考えられる。 呼吸器への刺激のおそれ（区分 3）
特定標的臓器/全身毒性(反復ばく露)	: 高い気中濃度にばく露された作業員（推定摂取量 200mg/日）に肝腫大が認められた。長期又は反復ばく露による肝臓の障害（区分 1）
吸引力呼吸器有害性	: 知見なし。

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性	: 知見なし。
水生環境慢性有害性	: L(E)C ₅₀ ≤100mg/L データが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明であるため区分 4 とした。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
容器及び包装	: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
国内規制	
陸上規制情報	特段の規制はない。
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	銅：名称等を通知すべき有害物 （法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9） （政令番号 第 379 号）
---------	---

記載内容の取扱いについて

これらは参考情報として取扱者に提供されるものです。この情報は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理的及び化学的性質、危険、有害性等についていかなる保証をなすものではありません。

製品の使用にあたっては作業実態に応じた安全対策を実施し、お取扱いいただくようお願い致します。この SDS は新しい情報に基づいて改訂されることがあります。